

人生儀礼

明治コンサルタント（株）仙台支店
昆 孝広



今回広報委員（大地編集委員）を拝命し、早速投稿機会をいただき感謝申し上げます。

先ずは簡単ではございますが自己紹介をさせていただきます。

幼少年時代

昭和32年宮城県塩竈市に生まれ、成人するまで塩竈神社の正門の近く赤坂と言うところで育ちました。中学校が塩竈神社の山裏にあったため通学は神社正門から境内を歩いて通学しておりました。

当時、氏子であった父からは通学時でも境内を通る際は必ず本殿で拝礼するよう口うるさく言われおり、いつもそうしていると父に伝えておりましたが、実際は202段もある石段を上るのが嫌で途中山道を迂回して通ったため参拝はしていませんでした。最近足腰が弱くなりゴルフがなかなか上達しないのも当時202段の階段を上らず足腰を鍛えていなかったからだと後悔しております。



また、塩竈神社では「人生儀礼」という言葉を良く目にしました。当時は何のことか気にも止めませんでしたが、最近言葉の意味がやっとわかりました。

人生にはいくつかの節目がありそれに当たる時に近くにある神社に参拝しご祈願を受け神様に感謝すること。これは社会にも通じるため、人とのつながりにも常に感謝すること。

余談ですが、宮城と言う地名の由来は、この地域に奥州一の宮（宮）塩竈神社があり、国府多賀城（城）が置かれていたから宮城と言う地名が生まれたと言われているそうです。

青年時代

学生時代は作家森村誠一を崇拜し当時彼の作品の殆どを読み漁りました。作家になる前がホテルマンであった彼の作品はホテルを題材にしたものが多く、私自身も彼の影響でホテルに興味を持ち始め、アルバイトでためたお金を叩いて題材になったホテルに宿泊をしたこともありました。大学卒業後は地元建設会社に就職しましたが、ホテル業界への興味が日に日に増し、仙台に新しいホテルが出来る事を知り1年で退職しそのホテルに就職しました。ホテルでは結婚式を担当しホテル内の神殿で毎日神前結婚式と言う「人生儀礼」をお手伝いさせていただいておりました。

人生の転機

ホテル時代にこの業界の方と知り合い、その方の強い勧めで前職である建設コンサルタント会社に就職いたしました。右も左も解らない業界で必死に仕事をしてあっという間に10年が過ぎたころ大阪転勤です。

長年宮城県で生活して来た私にとって大阪は異国の地であり、東北弁が関西で通じるのか心配でした。また田舎育ちの私は大都会での生活は馴染めないと思い、住まいだけは中心部から遠く離れた京都との府境の大阪府三島郡島本町と言うところに住むことにしました。

住まいから歩いて10分程度のところにウスキーの山崎でお馴染みのサントリー山崎蒸留所があり、近くを流れる淀川沿いには京都競馬場があるのもそこに決めた要因のひとつでした。

大阪勤務当初、週末は観光地めぐりで京都・奈良の仏閣、神戸、甲子園、宝塚等々、飽きることはありませんでした。その中でも通勤で毎日利用していた阪急京都線の水無瀬駅ビルにある靴屋さんの



きれい(?)に山積みされた靴の山は絶景でした。2坪ほどの店内に靴の山。店主曰く、商品を仕入れるのが好きで店の広さも考えずに仕入れていたらこうなったと。さすが「商人のまち」大阪らしい光景だと思って毎日見ておりました。大阪には天保山という日本一低い山がありますが、この靴山もある意味で日本一でしょう。

また島本町には水無瀬神宮と言う神社があり境内には名水百選に選ばれた離宮の水があります。サントリー山崎蒸留所も同じ水を使っているようです。週末には散歩がてら参拝しておりました。

大都会にも関わらず人情味ある人々、食べ物も安くておいしいものがたくさんあり、予想に反し大阪の街が非常に気に入りましたが、父の他界を機に長男である自分は仙台に戻ることを決意しました。

弊社に入社後、縁あってすぐに結婚。長男誕生、続いて長女誕生とその都度塩竈神社にお参りに行っております。先日も娘の七五三の祝いで参拝して来ました。

次の自分の人生儀礼は数年後に迎える還暦の賀寿です。その時こそは塩竈神社の正門の202段の石段を登り切り参拝したいと思っております。

最後に

最後になりますが、広報委員とし微力非才の身ではございますが、諸先輩方のご教示を仰ぎながら精いっぱい努めさせていただきますので、何卒よろしく願いいたします。